

サンフラワー

豊田発！国際ボランティア情報誌

SUNFLOWER

2006.4.1(季刊)
ISSN 0915-1710

NO.92

国際ボランティア最前線

VOLUNTEER TALK

ポスト万博の動き(2)

「愛・地球博、そして次の夢へ・・・」

愛・地球博ボランティアセンターのこれから

『愛・地球博成功の陰にボランティアあり?!』『陰に』と言っては失礼になるだろう、実際は最前線で各国からの来場者に接し、時には笑い時には涙し万博を支えたボランティア26,937人。その26,937人を支え共に歩んできた「愛・地球博ボランティアセンター(以下「センター」と呼ぶ)」は2006年3月末で一旦その役割を終えたが、「ボランティア経験を活かしてこれからも何かしたい!!」というボランティアの声に背中を押され、新たな歩みをこの4月から始めることとなった。その意気込みをセンターの広報担当の榎原氏に伺った。

当初の予定ではセンターは3月末で閉鎖。それ以降は各自が活動先を見つけボランティア活動を継続していくことを思い描いていたが、ボランティアからの声はセンターを何らかの形で残してほしいというものだった。「新しい活動場所へ飛び込んでいくのは少し抵抗感がある」というのが理由の一つ。その声を受け止め、今後センターはNPO法人格を取得し、それまでに培ったノウハウや人脈を活かすべく、新たな形で再スタートを切る。それに先駆けて、既に有志が集まり活動を始めたグループもあると伺った。



モリコロはお任せ

今後のセンターの機能の一つに、ボランティア情報やボランティア活動を体感できる機会を市民に提供することがある。市民を既存のボランティア活動に結びつけたり、個人で解決するには限界がある社会問題を何とか解決したいという意思のある人には、仲間を募る場を提供



今後のエコ活動について考える

していく。他にも助成金取得のための側面支援や、センター事務局運営へのボランティアの関わりや企業と市民活動のコーディネートも視野に入れている。また、観光地や公共施設を始め各地でのイベント等に、県の内外を問わず必要があればボランティアを送り出すことも検討しているという。

足先に活動を始めたグループには、フェイスベントやインテントをするグループ、小中学校の総合学習でボランティアについて一緒に考えていく大学生中心のグループ、また、間伐材を利用した炭いかだで河川の水質浄化に取り組むグループなどがあり、万博の理念を継承しながらのこれからの活動が楽しみである。

最後に「万博ボランティアは何を生み出したか？」を榎原氏に伺った。「まず言えることは、市民の社会参加のきっかけ作りになったこと。そして、その市民活動におけるボランティアとしての責任について、一人一人がさまざまな経験を通して考える機会にもなったこと。」ボランティアも主催者の一人であるという自覚と自信が、与えられた役割についての責任感に繋がっていったそうである。

万博というイベントには期限がある。しかし、その根底にある理念や希望には終わりがなく、互いに繋がれた手が力を発揮するのはこれからだろう。26,937人の今後の活躍とボランティアセンターの新たな展開を待っている人はきっと多いだろう。

(構成/久保浩美)

愛・地球博ボランティアセンター発行「愛・地球博ボランティア活動のあらし」参照

「あれから11年...阪神大震災の体験談を聞く」

外国人市民が多く住む豊田市。その中には地震を経験したことのない人も多く、彼らの防災意識を高めることは緊急の課題となっています。去る2月26日、TIAはNPO法人保見ヶ丘国際交流センターとの共催で保見地域のブラジル人住民を対象とした防災啓発事業を行ないました。

講師は神戸に住み、震災を実際に経験したブラジル人。最初に震災の被害が大きかった神戸市長田区の様子をビデオで紹介した後、地震が発生した当時の状況を母語のポルトガル語で語ってくれました。

突然起きた地震で家が大きく傾いた中、何とか家族全員が脱出できたこと。倒壊した住宅が一面に広がり、所々で火の手が上がるいつもとはまったく違う風景に呆然としたこと。崩れた家屋の中から助けを呼ぶ声が響き渡っていても、自分たちではどうしようもできなかった無力感。その声が今でも頭から離れないこと...。途中涙で何度もことばが詰まっても懸命に話を続けようとする講師の姿から、被災者にとって震災は決して「もう11年経った」過去の記憶ではないことを改めて思い知らされました。

講演会の終了後はブラジル料理を囲みながら参加者の交流を深めました。テーブルには今回の講演テーマにふさわしく、市から提供を受けた乾パンやアルファ米も！外国人参加者は非常食の調理や試食を体験しながら、災害に対する日頃の準備や実際に地震が起きたときの心構えを学んでいました。

「震災の記憶はできれば忘れてしまいたい。でもそれでは何も変わらない。あの体験を伝えることが自分の与えられた役割だから。」と語ってくれた講師のタバリスさん。多文化化が進むこのまちで今大災害が発生したら、地域では出身国に関係なくお互いを助け合うことができるでしょうか。彼らの想いを無駄にしない取組みを行なっていくことが国際交流協会にも課せられていることを再認識する機会となりました。

(構成 / 白井彩絵)

(予告)外国人災害サポートボランティア(仮称)募集のお知らせ

TIAでは2006年度の新しい取組みとして大規模災害が発生した時に、外国人被災者への情報提供や相談業務の支援について、ことばの面からサポートできる人材の確保と登録制度の整備を始めます。登録いただいたボランティアのスキルアップを目的とした研修会も実施します。ご関心のある方はぜひTIAへご連絡下さい。



講師のタバリスさんご夫妻



市担当職員から非常食の作り方を学ぶ参加者

「愛・地球博」豊田市フレンドシップコーナー(その8)

～未来へつなげよう愛・地球博～

10か国フレンドシップフェスティバル&地球市民村inあすて

愛・地球博記念イベントが去る3月24、25日に行われました。24日は名鉄トヨタホテルにて記念講演、10か国代表との円卓会議、フレンドシップコンサート、25日はあすてと鞍ヶ池公園にてステージパフォーマンス、展示ワークショップ等、様々な参加型イベントが行われました。ご参加いただきました皆様、ありがとうございます。この2日間を支えてくださったボランティアの皆様、心よりお礼申し上げます。

(構成 / 塚本江美)



円卓会議の様子
(24日、名鉄トヨタホテル)



韓国の留学生による花踊り
(25日、鞍ヶ池公園)

☆ TIAとTIAボランティアの活動報告 ☆

1月

- 7日 スペイン語入門講座 TIA
[スペイン語の基礎とラテンアメリカ文化について学ぶ。～3月25日まで 17人]
- 10日 中国語入門講座 TIA
[中国語の基礎と中国文化について学ぶ。～3月28日まで 17人]
- 15日 Alpha日本語教室開講 Alpha
[105人の受講者が登録 135人]
- 22日 TIAボランティアグループ第4回代表者会議 TIA
[ボランティア11グループの代表者が活動報告と意見交換 13人]
- 28日 アイシン精機さわやかふれあい講座第3回「スペイン文化の味わいとマドリッド日本人学校の日々」海外生活体験者グループ
[スペイン文化、マドリッド日本人学校についての講演。サロン形式での参加者との質疑応答 21人]

2月

- 8日 愛・地球博記念10か国フレンドシップ・フェスティバル第2回実行委員会 TIA
[3/24・25のイベントについての協議。広報PRについての報告など 35人]
- 10日 豊田市立美里中学校生徒受入れ TIA
[総合的な学習の時間の一環として1年生生徒受入れ 6人]
- 11日 英語サロン「Milk & Cookies 英語で習うアメリカ家庭のお菓子作り」E-1FF
[アメリカのクッキーの歴史、文化などの講話。クッキー作りの実習 30人]
- 20日 「ひらがなういずゆー」第49号発行 ひらがなういずゆー
[外国人市民のためのひらがな情報誌の発行 1,100部]
- 24日 第16回地域の国際化豊田セミナー TIA
[多文化ソーシャルワーカーの基本知識の再認識及び、今後の支援体制について議論 75人]
- 25日 国際理解教育セミナー「まるごと中国講座パート1」TIA
[中国青海省出身者を講師に招きワークショップと中華風おやきの試食を実施 20人]
- 26日 保見防災セミナー
[外国人住民への防災啓発を目的としてセミナーをNPO法人保見ヶ丘国際交流センターと共催 37人]
ひなまつり交流会 留学生を支援する会
[古くから三河地方に伝わるおこしもの作りの体験と、持ち寄り料理で交流パーティーを行う 10人]

3月

- 1～3日 外国人災害対応研修
[全国市町村国際文化研修所主催の研修に参加 事務局1人]
- 3日 豊川市国際交流協会ボランティア研修協力 TIA・ボランティア
[豊川市より17人が視察。研修の一環としてボランティアの活動を学ぶ 26人]
- 7日 05年度第2回理事会・評議員会 TIA
[06年度事業計画・予算案などを承認 40人]
- 10日 多文化共生推進協議会教育部会
[文部科学省「平成18年度不就学外国人児童生徒支援事業」について協議 事務局2人]
- 11日 日本語講座後期閉講式 TIA
[21人が修了証を手に。35人]
- 14日 愛・地球博記念10か国フレンドシップフェスティバルボランティア説明会
[3月24・25日のイベント概要・ボランティア内容について詳細を説明 12人]
- 14日 多文化共生推進協議会コミュニティ部会ワーキンググループ会議
[保見団地のごみ対策について関係者と協議 15人 事務局2人]
- 15日 日本語サロン後期閉講式 日本語サロン
[38人が修了証を手に。式後、出し物やボラックで親睦を図る 70人]
- 16日 愛教大留学生交流会出席 留学生を支援する会
[留学生を支援する会とTIA職員が出席 5人]
- 17日 愛・地球博記念10か国フレンドシップ・フェスティバル第3回実行委員会
[3月24・25日のイベント計画詳細の周知、25日の出演者・出展者への説明会 60人]
- 22日 豊田市第7次総合計画審議会
[これまでの経緯と今後の予定(年6～8回程度開催)の説明事務局1人]
- 24・25日 愛・地球博記念10か国フレンドシップフェスティバル
[24日:円卓会議とフレンドシップコンサート、25日:交流会イベント 40,000人]
- 26日 保見ヶ丘ボランティア研修会
[多文化化する地域での防災の取組みを考える 40人]
- 26日 「かんたんのできる春の家庭料理」日本文化紹介
[外国人の方を対象に菜の花のちらし寿司づくり体験 16人]
- 30日 外国人集住都市会議 愛知、三重ブロック会議
[05年度の振り返りと06年度の重点取組事項を協議事務局2人]
Alphaバスハイク Alpha
[日本昭和村への郊外学習を実施 学習者が日本文化を体験 165人]

エスニック探検隊

最新エスニック雑貨のことならおまかせください!!

「エスニック雑貨サムレット」

HP <http://www.somelet.co.jp>



サムレット
ホームページ



店主の齊藤さん

衣料品・日用雑貨・本...今はインターネット上で全国各地からでも好きな商品を購入できる時代だ。ここ豊田市にもホームページを立ち上げている人を発見!エスニック雑貨「サムレット」の店主・齊藤さんだ。オフィスは自宅の一室。天井近くまである棚に積まれた1600点もの商品に囲まれ、必須アイテムのパソコンを前に仕事をしている。月1度の買い付け先は、自らも現地の人の優しさにはまったというタイへ。堪能なタイ語を使い、現地ではテレビ・雑誌からローカル情報をリサーチし、同時に新しい仕入先も開拓するなど、常に最新の商品をお値打ちに提供する努力を怠らない。

その価格の安さは魅力的で、一般販売の他、小売業者への卸しも行っている。

また、仕入れツアーに参加すれば、齊藤さんが今まで培ってきたノウハウを惜しみなく伝授してもらえ、雑貨屋さん希望の人にはうれしい企画だ。まずは、情報盛りだくさんのホームページにアクセスしてみて! (構成/河合直美)



国際教育NPO

Up with Peopleプログラム説明会のお知らせ

世界中の18~29歳の若者を対象とした、「世界で学び、世界で成長する」ユニークな「体験型留学」プログラム、Up with Peopleの説明会を名古屋で実施します!ご家族、お友達をお誘いあわせの上、お気軽にご参加ください。

日時: 5月14日(日) 10:00~11:30am 11:30より個別相談会を実施(希望者対象)

会場: 名古屋市青少年文化センター ビデオルーム (名城線矢場町駅 ナディアパーク8F)

*参加無料・予約不要

Up with Peopleは1965年にアメリカでスタートした非営利の国際教育団体です。発足以来、約2万人(日本人400名を含む)の世界中の人々が参加しています。半年間のこのプログラムでは、世界20カ国以上から集まる若者が、世界7カ国、19都市を旅しながら、地域交流活動、異文化体験、ホームステイ、ミュージックパフォーマンスを通して、ともに学び、相互理解と自己探求(=スキルアップ)を深めています。豊田市へも過去、7回訪問しており、今秋も訪問する予定です。



柴田圭介さん

2004年参加 豊田市在住 現在調理師学校在学中
「世界中を旅し、貴重な経験や素晴らしい出会いが沢山ありました。自分自身を知り、人との交流や異文化について考え、また世界中に友達ができ、Up with Peopleでの経験は一生の財産になりました。豊田市からの参加生が増えると嬉しいですね!」

プログラムの詳細はホームページをご覧ください。www.upwithpeople.org
ご質問や資料請求は、Up with People日本オフィスまでお問い合わせください。

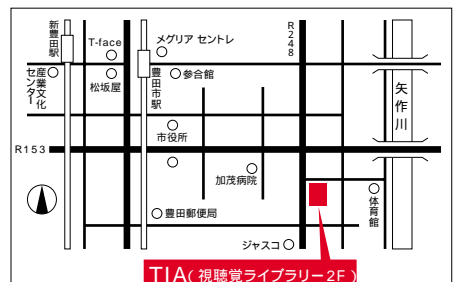
Up with People日本オフィス

〒150-0012 東京都渋谷区広尾2-15-9 TEL: 03-3400-7495

お問い合わせ直通ダイヤル: 03-5420-2107 E-mail: info@upwithpeoplejapan.gr.jp

編集後記

春という季節は不思議なもの。ただ春ということだけで、新しいことに挑戦してみたくなったり、新しい人との出会いに心がなだかわくわくする。この春、新たに豊田市に引越してこられた方も多いはず。今朝もボランティアをしてみたいという方から電話がありました。新たな出会いが楽しみです。(久)



2006年4月1日発行(3,000部季刊)
編集・発行 財団法人豊田市国際交流協会(TIA)
〒471-0023 豊田市拳母町3-59
TEL(0565)33-5931 FAX(0565)33-5950
E-mail:tia@hm.aitai.ne.jp 月曜休
〔ホームページ〕 <http://www.tia.toyota.aichi.jp/>